

VOL.161

農協からのお便り

8
2021

グリーン
Green

地域と農業をむすぶJA広報誌

Green

今月の表紙

麦の収穫作業始まる…

Topics

- ・『ふくる』1日限定イベント開催
- ・青空教室を開催
- ・組合員感謝祭の中止について

他

豊里地区

菱嶋 克也さん



JA 上川中央

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

思いを馳せて富良野を巡り…

日帰り視察研修を開催

7/6

J A女性部上川支部

女性部上川支部の日帰り視察研修が、部員22名の参加のもと富良野市において実施されました。

「北の国から」で黒板五郎役を務めた田中邦衛さんが亡くなったこともあり、撮影場所となった「麓郷の森」や「北の国から」のミニ資料館を巡りました。みなさま、それぞれに思いを馳せて見学されたことと思います。

富良野チーズ工房では、職員の方から、市と農協の協力で新鮮でおいしい乳製品ができていることを説明して頂きました。もちろんおいしさも確認してきました。

そしてフランマルシエを堪能し、その後、ラベンダーも観賞し視察研修は終了しました。

天候が気かりでしたが、研修終わりの霧雨程度で済み、とても良い研修となりました。



初めての大会は珍プレーも和やかに…

女性部合同でパークゴルフ大会を開催!!

6/30

J A女性部

J A女性部が主催するパークゴルフ大会が、愛別町きのこの里パークゴルフ場で部員・大村組合長と事務局19名が参加して開催しました。

合同研修は例年2月に1泊2日の日程で開催していましたが、未だ新型コロナウイルスの終息が見えない中で宿泊研修は中止せざるを得ない状況のため、女性部では時期や内容の変更を検討して初めてパークゴルフ大会を開催することとなりました。

当日は、心地よい風が吹く晴天の中、各チームに分かれて18ホールをプレー、参加された部員の方々がほぼ未経験者のため珍プレーも多々ありましたが、和やかに楽しい時間を過ごしました。

団体賞・個人賞を受け取られた皆様、おめでとうございます。



ビュースポットがお客様をお出迎え…

直売所の花植え作業

6/17

朝もぎ市場

上川町朝もぎかあさんの会が、JA直売所『ふくる』の花壇やプランターに花苗を植える作業を行いました。

参加した会員16名は額から汗を流しながら一生懸命に作業を行っていました。

花壇の他にもプランターを利用してインスタ映えるように花苗も飾っています。

皆様もお越しの際は、ぜひ花のビュースポットの写真を投稿して頂けたら嬉しいです。

これから色彩鮮やかな花でお客様を出迎えることを楽しみにしています。



生育状況や病害虫の防除… 大豆研修会を開催

7/12
愛別地区

大豆の現地研修会を本田光輝さん（金富地区）の圃場で開催しました。
上川農業改良普及センターの井村専門普及指導員より、生育状況や今後発生の可能性がある病害虫の防除、追肥の目安などについて説明をしていただきました。研修の中では実際に圃場に入り根粒菌や線虫の確認も行いました。
参加された生産者の方々は熱心に耳を傾けられていました。



今後の栽培管理に活用出来るか検証…

「リモートセンシング技術」でドローン撮影

7/15
愛別地区



愛別町米麦生産振興協議会の試験的取組で「リモートセンシング技術」を用いたドローン撮影を行いました。
基盤整備後の水田ほ場を中心に6眼カメラを用いて撮影・解析をし、その結果を今後の栽培管理に活用出来るか検証していきます。
引き続き、安定した良質米生産を図れるよう取り組んで参ります。

コロナ禍の中においても、福が来るように願いを込めて…

『ふくる』1日限定イベント開催

7/17
朝もぎ市場

コロナ禍の中においても、皆さんに福が来るように願いを込めて（ふくる）、秋にも大収穫祭の開催を予定しています。その際は是非お越しください！

今回のイベントでは、上川町産ブランド豚の溪谷・味豚をはじめ、愛別町産のきのこセットや株舞茸、愛ふくふく大福セットを販売しました。当日はJA青年部による、愛別町産米「愛一杯ゆめぴりか」無料配布のPRイベントも同時開催され、たくさんの方に来店していただき、市場に並んだ新鮮野菜も瞬く間に売れ大盛況となりました。

JA直売所『ふくる』で、1日限定の特売イベントを行いました。
お母さんたちの朝もぎ野菜もたくさん並び、チラシを見ていただいた町民の皆様方も暑い気温の中、たくさんお越しいただきました。





農林水産省からのお知らせ

みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略とは

我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナを契機とした生産・消費の変化などの政策課題に直面しており、将来にわたって食料の安定供給を図るためには、災害や温暖化に強く、生産者の減少やポストコロナも見据えた農林水産行政を推進していく必要があります。

このような中、健康な食生活や持続的な生産・消費の活発化やESG投資市場の拡大に加え、諸外国でも環境や健康に関する戦略を策定するなどの動きが見られます。今後、このようなSDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、我が国の食料・農林水産業においてもこれらに的確に対応し、持続可能な食料システムを構築することが急務となっています。このため、農林水産省では、令和3年5月に食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルール・メーキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換。総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでグリーンファイナンス要件を充実。
※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

ゼロエミッション
持続的発展

革新的技術・生産体系の
速やかな社会実装
を期待
高効率技術・生産体系
を期待
開発しつつある
技術イノベーション

2020年 2030年 2040年 2050年

経済 持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

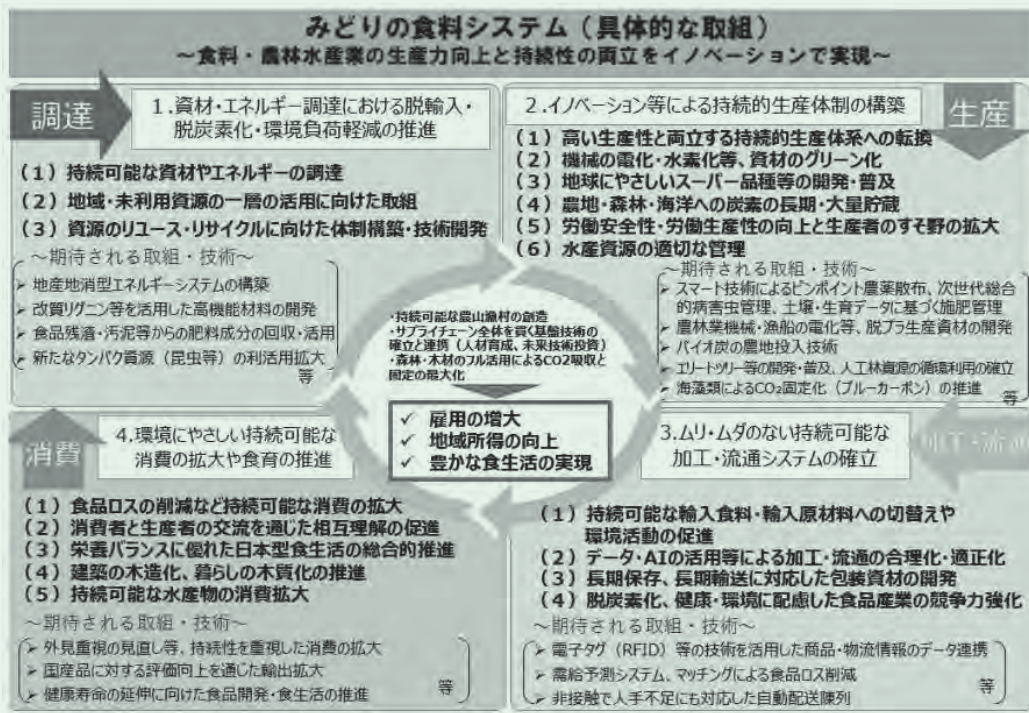
社会 国民の豊かな食生活
地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が更換した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

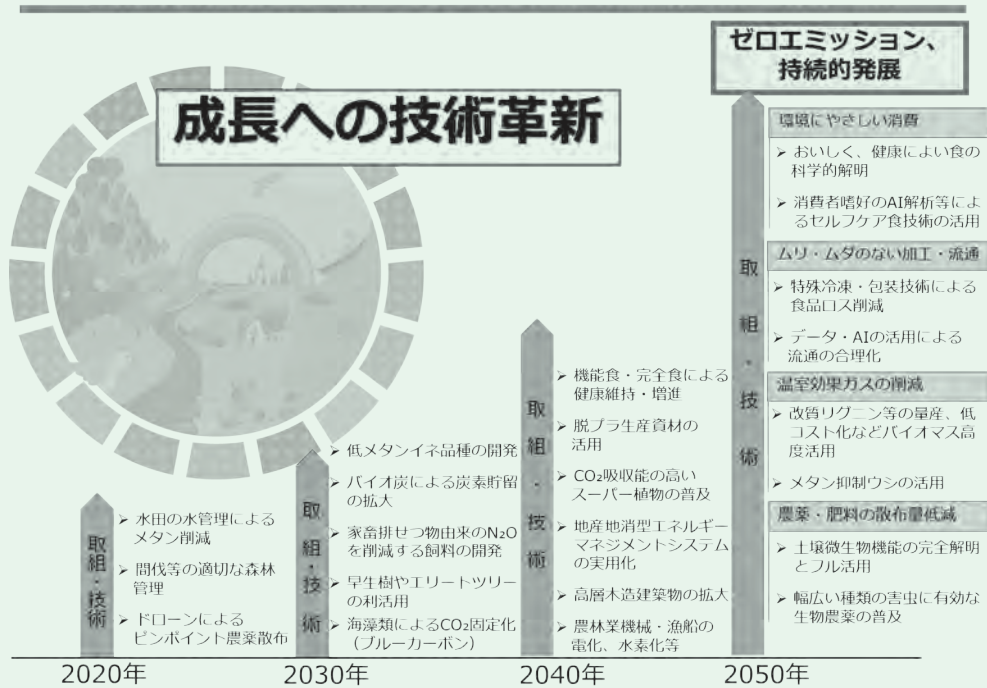
環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの脱却によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルール・メーキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）



農林水産分野でのゼロエミッション達成と持続的発展に向けた取組



詳しくはこちら

みどりの食料システム戦略

検索

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

北海道農政事務所の取組はこちらから

https://www.maff.go.jp/hokkaido/kikaku/midori_hokkaidou.html



問合せ先

農林水産省北海道農政事務所企画調整室

☎ 011-330-8801

農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課

☎ 03-3502-8056

（問合せメールフォームURL）

✉ <https://www.contactus.maff.go.jp/j/hokkaido/form/4762.html>

農林水産省

「営農型」という名の「農業潰し型」太陽光発電は、誤っている

強まる農地への

ソーラーパネル設置圧力

最近、官邸などからの農地へのソーラーパネル設置圧力が強まって、関係者は苦慮していると聞く。「営農型」という名目で強引にパネル設置を進めて、地域農業の衰退を加速しかねない事態が懸念されるのである。

2050年までのカーボンニュートラル（排出するCO₂と吸収するCO₂の量を同じにする）目標を追い風にして、「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」が、営農型太陽光発電（農地に発電装置を設置、その下で営農）を含むソーラーパネルの設置拡大を進めて

いる。

ソーラーパネル設置要件の大幅緩和

営農型太陽光発電については、現状でも、業者によっては許可時の計画どおり営農しない場合も多く、現場から苦慮している声が聞かれている。こうした状況下において、それを追認するかのようになり、農林水産省は3月23日の同会合で図の対応方針を示し、4月から実施している。要点は以下の2点である。

（1）収量要件の撤廃

営農型太陽光発電を設置する場合、地域の平均単収の8割以上の確保が要件だったが、荒廃農地を再生利用する場合、



すずき・のぶひろ

1958年三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省入省。農業総合研究所研究交流科長、九州大学教授などを経て、2006年より現職。専門は農業経済学、国際貿易論。著書に『食の戦争～米国の農に落ちる日本』（文春新書）、『ここが間違っている！日本の農業問題』（家の光協会）などがある。

収量要件を撤廃する。（つまり、営農しているかたちだけでよい）

（2）農地転用をしやすくする

荒廃農地定義の拡大

これまで、①生産条件が不利、②相当期間不耕作、③耕作者を確保することができず、耕作の見込みなし、の3条件が必要だった荒廃農地の転用について、
 ③耕作者を確保することができず、耕作の見込みなし」だけを満たせばよいことになり、太陽光発電装置の設置が格段に容易になる。

（1）の収量要件撤廃については、「荒廃農地を再生利用する場合」となっているため、荒廃農地でなく、今も通常に営農

している農地にパネルを設置する場合は、これまでどおり、収量要件は課される、と判断される。ただ、原則的にはそうだが、一部で要件を撤廃すれば、なし崩しに全体が実質的に野放しになっていくものと推察される。

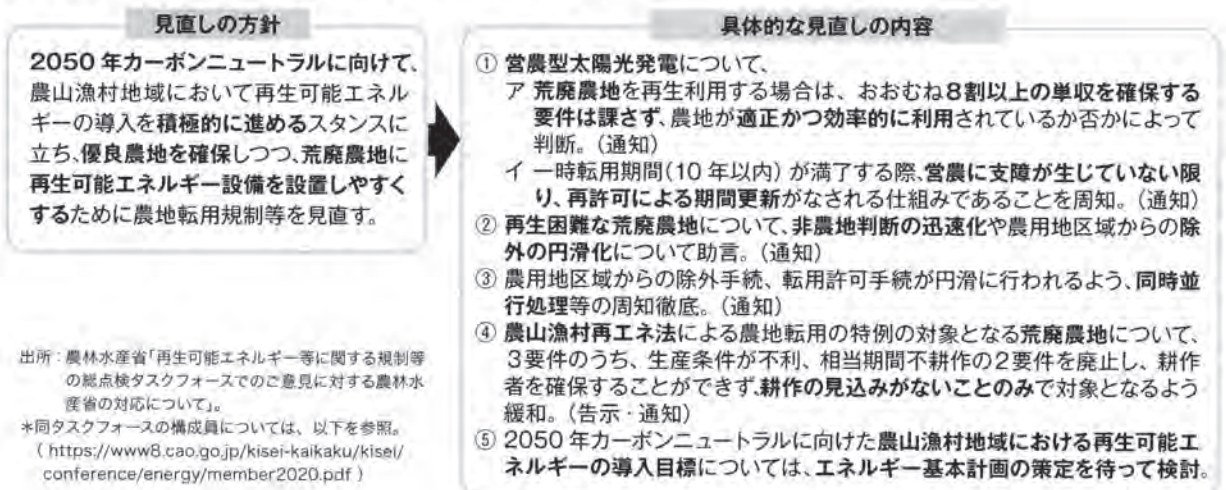
**「営農型」という名目で強引に
パネル設置を進めて地域農業の
衰退を加速しかねない**

実質的に営農を前提にせず、むしろ、農業の衰退を促進しつつ、太陽光発電を押し進める方向性が強くなっており、「営農型太陽光発電」と呼べるのかどうか、疑問も生じる。地域農業振興と逆行し、農村コミュニティの崩壊や周辺環境の劣化にもつながらないか、十分な検証が必要ではないだろうか。

農業分野では、古くから土地改良区などが小水力発電に取り組んでいる。1年の半分（夜）は稼働できない太陽光よりも、24時間稼働できる小水力、畜産ふん尿などのバイオマス発電のほうが有望だとの見方もある。

水田（水稲）では、太陽光エネルギーを発電に振り分けた分だけ収量へ影響するだけでなく、日陰になるとイネは徒長反応することから倒伏リスクが高まるという問題もある。もちろん、宮崎県などでブルーベリー栽培の上にパネルを設置することで、強すぎる日光が緩和され、生育にもプラスになるといったかたちで、営農にも自然エネルギー活用にもプラスになる、本来の目的に合致した営農型太陽光発電ならば推進されてよからう。折しも、2030年に向け、温室効果ガスを2013年比で四六%削減するという大胆な目標が4月22日に決まり、ソーラーパネル設置圧力がさらに高まることと考えられる。こうした中で、農業振興に逆行する安易な設置がやみくもに拡大されることが懸念される。そうなること、営農型太陽光発電の規制緩和が、制度の趣旨からして法的にも妥当であり、社会経済的、環境的にも、プラスの効果があるのが、さらに厳しく問われることになる。

図 再エネ導入に向けた農林水産省における対応について



出所：農林水産省「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォースでのご意見に対する農林水産省の対応について」。
*同タスクフォースの構成員については、以下を参照。
(<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaijaku/kisel/conference/energy/member2020.pdf>)

お知らせ

令和3年度組合員大感謝祭の開催中止について

日頃より、当組合の運営に際しまして、ご理解・ご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

世界中で猛威を振るっております「コロナウイルス」の影響により、私たちの日常生活は一変し、地域経済だけでなく地域のコミュニティーにも多大なる影響をあたえており、取組みが開始されたワクチン接種の効果により早い収束を願うところであります。

さて、組合員の皆様を対象とし開催しております「組合員大感謝祭」について、感染防止策を講じて開催できないか、内部で検討した結果、開催会場が狭く「密集」状態を避けることが難しいこと、また、飲食時のマスク着用は困難で、「密接」による感染リスクが高くなることが懸念されるとの判断のもと、協議の結果、愛別・上川の両地区ともに「開催中止」を決定いたしました。

なお、令和4年度につきましては、感染収束やワクチン接種の効果などの状況を踏まえて開催を検討してまいりますので、開催の折には多くの組合員の皆様にご参加いただき、楽しんでいただきたいと思いますと考えております。誠に残念ではございますが、中止の決定にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

上川中央農業協同組合
代表理事組合長 **大村 正利**

8月23日(月)～27日(金)まで

JA資材店舗(愛別店・上川店)では

**組合員大感謝祭中止に伴い、今年度も
“コロナに負けるな!! 組合員感謝セール”を行います。**

セール対象品につき割引きして販売いたします。

上記期間内は組合員大感謝祭恒例の、お楽しみ抽選会を行います。商品をお買い上げの際に、半券を投函すると素敵な商品が当たるかも?ぜひご来店ください。
ただし、この抽選会対象者は当JA組合員とさせていただきます。

来店記念として毎日先着30名様に粗品を用意しております。

J Aのあゆみ 7月

- 6日 JA女性部上川支部 視察研修
- 12日 大豆青空教室
- 15日 米麦ICT研修会
- 17日 ふくる 1日限定イベント
- 27日 第6回定例理事会



組合員のうごき

(令和3年6月24日現在)

正組合員戸数	318戸
総組合員数	2,259名
正組合員数	499名
うち団体数	32団体
准組合員数	1,760名
うち団体数	60団体

第5回定例理事会

令和3年6月24日開催

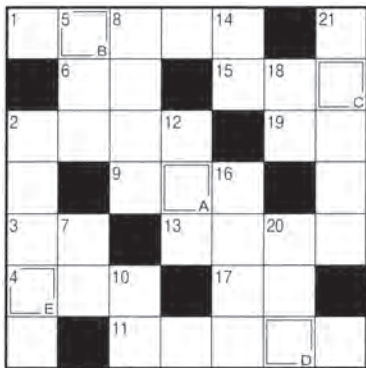
■報告事項

- 1 組合員の脱退について
14名の脱退について報告した。
- 2 臨時給付金の支給について
第4回理事会承認事項に基づく支給内容について報告した。
- 3 JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち全中および農林中金が定める事項の報告について
報告様式に基づき、調査結果を報告した。
- 4 JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング」の報告について
報告様式に基づき、調査結果を報告した。
- 5 CCS(顧客属性照会システム)定期確認結果報告について
報告様式に基づき、調査結果を報告した。
- 6 マネロガイドラインギャップ分析に係る内容報告について
現状と今後の改善対応策について報告した。
- 7 第2回農家経済対策委員会の開催内容報告について
6月15日の委員会の顛末について報告した。

■議事

- 1 第1四半期JA監事監査の結果並びに顛末について
監事監査の顛末を報告し、承認された。
- 2 令和3年産米出荷契約金の支払いについて
出荷契約に基づく申込み内容を説明し、支払金額について承認された。
- 3 令和3年産そば出荷契約金の支払いについて
出荷契約に基づく申込み内容を説明し、支払金額について承認された。

パズル? 頭の体操



↓ タテのカギ

- 2 鉱石を高温でドロドロにする装置。高炉とも呼ばれます
- 5 川や池の土手のこと
- 7 信号機で「止まれ」を示す色
- 8 家屋を壊して新しく造り直すこと
- 10 墨も料理に利用する魚介
- 12 大きな魚はこの形でバック詰めされていることが多い
- 14 令和3年の——の日は8月8日。国民の祝日です
- 16 ねぶた祭で知られる県
- 18 「五七五七七」などの形式で作られます
- 20 飛行機で人や荷物を運ぶこと
- 21 井戸端会議中に楽しむもの

→ ココのカギ

- 1 最低気温が25度以上の夜のこと
- 2 寺子屋では字の——やそろばんを教えました
- 3 地球の中心部にあります
- 4 長良川で有名な伝統漁法
- 6 親戚の——を頼って仕事に就いた
- 9 高速道路のサービス——で一休みした
- 11 親潮は千島——とも呼ばれます
- 13 帰る客を玄関まで——に行ったら
- 15 力士が腰に締めます
- 17 割、分、厘の次
- 19 虫が入ってこないように布団の周りにつるします

先月号の答え

1	カ	サ	ヨ	ウ	カ	イ
2	ス	イ	カ	ミ	ン	ト
3	ミ	イ	タ	ザ	コ	
4	ネ	コ	メ	イ	シ	
5	ゲ	ン	シ	ツ	チ	
6	コ	ダ	マ	サ	ザ	エ
7	ウ	イン	ク	ル	ス	

解答	A B C D
	サンダル





発行：上川中央農業協同組合

〒078-1495 北海道 上川郡 愛別町 字本町 125 tel (01658) 6-5311

編集：総務部企画課

E-mail: a-soumuu@ja-kamikawa.or.jp



作り方

- (1) フライパンで豚ばら肉を脂身の面から焼き始め、順に全面を焼き上げる。
- (2) 大きめの鍋に(1)、ひたひたの水(材料外)、ネギの青い部分1本分、ショウガの皮(分量外)を入れ中火で2時間ゆで、ゆで上がった豚ばら肉を冷ましてから角切りにする。
- (3) 鍋にAとトマトを弱火で2~3分炒めてからBと豚ばら肉、ジャガイモを入れ中火で15分煮る。
- (4) (3)を器に盛り付けさんしょうを散らして出来上がり。

今日のオススメ

豚ばら肉とジャガイモの辛煮込み

材料(4人分)

- 豚ばらブロック……………500g
 ジャガイモ(下ゆでしたもの)…… 2個
 トマト(さいの目に切ったもの) ……中1個
 さんしょう……………適宜
- A
 ニンニク(みじん切り) …… 小さじ1/2
 ショウガ(みじん切り) …… 小さじ1/2
 豆板醤(とうばんじょん)、
 豆鼓醬(とうちじょん)、
 サラダ油…………… 各小さじ1
- B
 水…………… 2カップ
 しょうゆ、酒、みりん、
 砂糖…………… 各大さじ2
 ネギ(青い部分)…………… 1本分
 ショウガの皮…………… 少々

進めよう! 国消国産

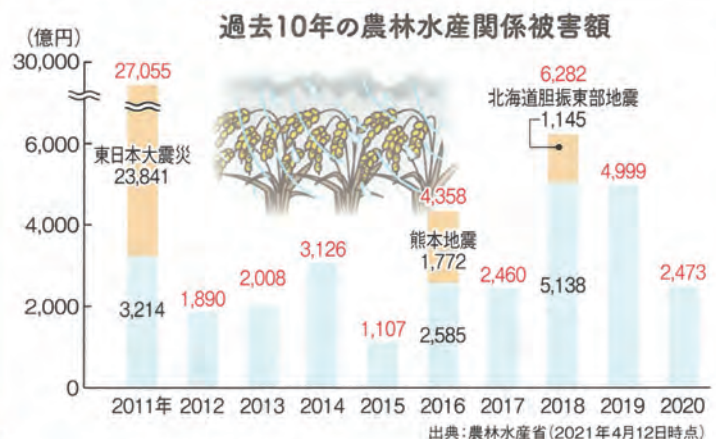


国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産



【今回のテーマ】
 自然災害が多発…
 どんなリスクがある?

日本だけでなく世界でも自然災害の発生が続けば、農畜産物が生産できなくなり、最終的には食料不足になってしまうリスクがあります。



日本では自然災害の回数・被害額とも増加傾向にあり、天候不順による収穫量の減少、洪水や土砂崩れによる農地や農業関連施設への被害などが発生しています。例えば、日本における「非常に激しい雨(1時間降水量50ミリ以上)」は直近30年で約1.5倍に増えています*。

自然災害は世界的にも多発していて、日本の農産物輸入の上位5カ国(米国、中国、豪州、タイ、カナダ)でも、豪雨や干ばつなどの災害が発生しています。

こうしたリスクを知り、国産食材を食べることで日本の農業を応援することが大切です。

*出典：気象庁

耕そう、大地と地域の未来。